

地元説明会の主な質問と回答（魚津市下椿地区、舁田地区）

Q 災害廃棄物は安全だと言われるが、入口で配布されたチラシでは、高濃度の汚染物質が測定されていると書いてある。このことについて説明してほしい。

A【国】島田市の小学校で高い放射能濃度が検出された件については、雨どいの下、溝等の雨が流れて集まるところを測定し、高いレベルの放射能濃度が検出され、試験焼却の影響ではないかという内容です。これは、原発事故の影響で日本全国に飛散したものの影響と考えられます。試験焼却の影響と書かれていますが、同じ場所を前後で測定していないので、試験焼却とは関連づけられません。

A【市長】木質可燃物を焼却している秋田県の焼却施設を視察に行き、焼却前の灰の濃度と焼却後では放射能濃度の影響が無かったと聞いてきました。放射能が検出されたら大変であるが、私が山田町の仮置場を見るかぎり、福島から 200 キロ以上離れているところでそこだけが汚染されているということは考えられません。

A【県】市民団体では、松葉の数値が高い理由は試験焼却以外に考えられないと言っています。しかし、実際に調べた大学職員によると、松葉の濃度と試験焼却の関連を否定しています。実際には、松葉の濃度が低い場所もあると大学職員の方も言っています。試験焼却との関連性について断定できないとのことでした。

Q 島田市の松葉の件を聞いて、市長はどう思うか？

放射性物質が漏れ出す可能性もある。埋立地に放射性物質が残るので管理する必要がある。どのように管理するのか？漏れ出さない対策はどうするか？モニタリング方法はどうか？

A【市長】引き受けようとしているものは、放射能汚染がされていない安全なものです。放射能汚染がされていないということが前提であり、議員さんと一緒に、現地へ行きその安全性を確認、実感してきたところです。災害廃棄物をこちらに持ってくる時は、山田町で搬出前に測定し、そこで 100 ベクレル/kg を超えたものということであれば、引き受けることはありません。安全が第一であり、今の山田町の災害廃棄物は大丈夫であることは確認してきましたが、今後放射能汚染が確認され、100 ベクレル/kg を超えるようなことになった場合は、引き受けることはありません。安全が確認されたものしか受け入れるつもりはありません。

A【県】埋立処分場の管理についてですが、放射性セシウムは焼却によってガス化し、一般的には焼却灰と結合して塩化セシウムに変化します。塩化セシウムは、塩化ナトリウム（食塩）と化学的な特性が似ています。塩化セシウムが雨にさ

らされることにより溶解することは否定できませんが、処分場の構造上、底には遮水性シートが敷かれ、その上に粘土質を敷き詰めてあります。その上に焼却灰を一定の厚みまで埋め、その上に覆土をするというサンドイッチ構造にしています。また、放射性セシウムの化学的性質上、一旦溶解してセシウムだけになった場合でも、粘土、泥に吸着し、外れにくくなるという性質があり、溶解した場合でも遮水シート及び粘土質により遮へいされます。このことから地下水に出るといことは考えられませんが、万が一に備えて、定期的に状況確認、把握のためモニタリング調査を続けて管理していきます。

Q 焼却後の灰の濃度が 20 倍になると聞いている。下樁で濃度が変わらないのか？今後、ずっと測定してもらえるか？

A【県】焼却施設から出る排ガスについても測定し、焼却灰になった時にも当然濃度を測定しチェックします。山田町から持ってこようとしているものは、放射性物質とはされない 100 ベクレル/kg を超えないものに限るものであり、これをしっかり確認します。灰の濃度は約 17 倍に濃縮されるといわれていますが、そのことを試験焼却において確認します。試験焼却に向けて、さらに安全性を確認するための作業、手続きを、段階を踏んできちんと行っていきます。

Q 万が一、汚染されたものと分かった場合、すぐに受入れをやめるとはっきり言っほしい。

A【県】富山県と岩手県の間では、受け入れようとする災害廃棄物は放射性物質として取り扱う必要のない濃度、クリアランスレベル 100 ベクレル/kg 以下となっています。それを超えるものは受け入れることはありませんので、安心してください。

A【市長】山田町から搬出する前に放射能濃度を測定し、焼却場でごみピットに入れる前に放射線量を測定し、そして焼却後、灰になった状態で濃度を測定します。受け入れ段階でクリアランスレベルを超えるようであれば、燃やしません。

Q がれきを受入れることにより、灰を運ぶダンプの台数が増えるのでないか？

A【広域圏】現在、日量 40 トンで想定しており灰の量として 2 トンとなります。なお、日量 40 トンは焼却施設の能力で対応可能な範囲です。がれきを受入れることにより、交通量も増える等の変更がある場合は地元の意見を聞き、了解を得ながら進めて行くことになるので、ご理解、ご協力をお願いします。

Q ひとりでも反対者がいた場合は、受入れないのか？

A【市長】最後には議会と相談して進めていくこととなります。

Q 現在の処分場に埋め立てている物の放射能測定をしているのか？処分場からの放流水にどれだけの放射能を含んでいるのか？

A【広域圏】5月9日に処分場の敷地境界等で放射線量を測定しています。結果は、富山県の自然界と同レベルでした。

A【魚津市】水については、PCBや鉛や重金属類は測定していますが、放射能濃度等については測定していません。

Q 試験的に燃やす場合、私たちは何を基準として判断するのか？

A【県】試験焼却をする前の状況を把握するという事で、処分場の放射能濃度について調査しデータを採る予定です。

Q 管理型の処分場で埋めるよりも、もっと安全な方法があるのではないかと？灰を埋めたあと、大雨で一気に放射能が流れ出すことはないか？

A【国】何万ベクレル/kgのものについては、遮断型処分という方法もありますが、国で定めた8,000ベクレル/kgという基準については、国際原子力機関（IAEA）から放射性セシウム8,000ベクレル/kg以下の廃棄物を管理型処分場で処分することについて、既存の国際的方法論と整合性がとれていると評価されています。

Q 新聞で富山地区広域圏の焼却割合が出ていたが、新川広域圏ではがれき「1」に対してどれだけのごみを混ぜるのか？試験焼却なので割合を変えることはできるのか？

A【広域圏】約16倍を想定しています。割合を大きく変えることはないと考えています。

Q 試験焼却の結果、濃度を濃くすることを考えているのか？

A【広域圏】濃くする考えはありません。

○意見等

- ・岩手県山田町は地理的な条件を考えると、受入れてもよいのではないかと。
- ・現地視察をするべきである。
- ・玄関先で配布されたチラシの分析をお願いしたい。
- ・私たちは、ずっとここに残るので、安全だけは確保してほしい。
- ・放射能の汚染がない廃棄物を受入れるのはかまわない。
- ・汚染されていない富山県に汚染されているものを受け入れるのはどうかと思う。